

朝日新聞 2013 年（平成 25 年）7 月 18 日（木曜日）

<投票所「障害者に配慮を」>

### ◎市民の会、道選管に要望

参院選の投票所や選挙資料を障害者にとって使いやすくするよう、「差別解消を求める市民の会」（札幌市）が 12 日、道選挙管理委員会に要望した。道選挙区の各陣営にもバリアフリーの考え方を問い、回答があれば公表する方針。

会によると、投票所の段差解消は整ってきたが、選挙期間中の情報提供や投票所のふりがな併記などの面では、今なお障害者への配慮が尽くされているとは言い難いという。

記者会見した知的障害者の男性は「投票所入場券が漢字だらけで、何が書いてあるかわからない。周りの人に聞かなければ投票所にも行けない」と言う。視覚障害者の女性は「点字訳の選挙資料が自宅に届くのは投票日直前で、政見放送を聞きたくてもすでに終わっている」と語った。

代表の竹田保さん（53）は「アベノミクスと騒がれても、福祉の分野に恩恵は来ず、選挙で一票を投じる判断材料さえ十分に得られない。我々の声を国会議員に届けたい」と訴えた。